



夢中でありたい。

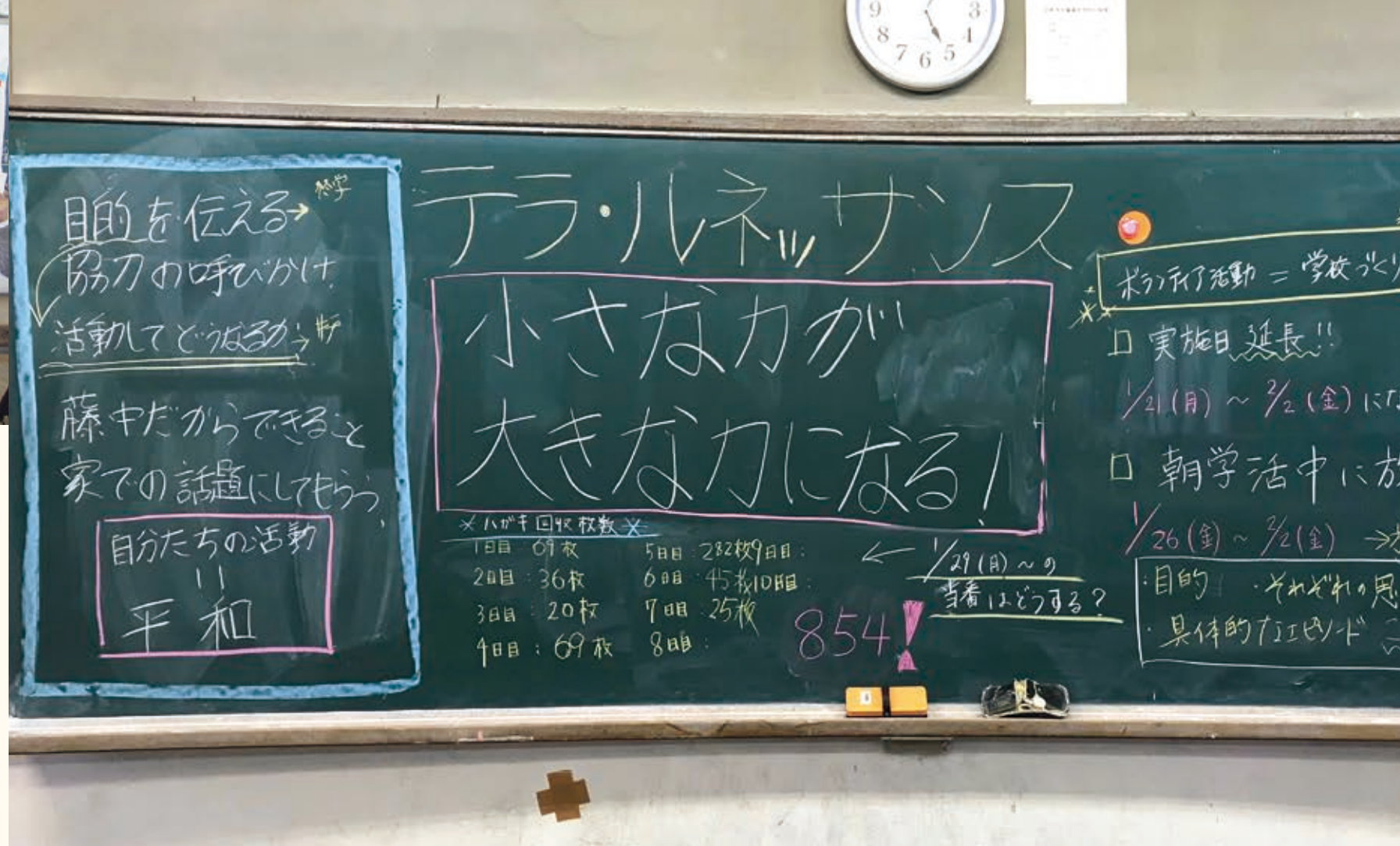
02

* News Letter *

結晶母

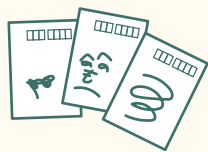
Terra Renaissance

わたしの学びが、 世界を変えていく



中学生のうちから行動することの大切さ、あきらめないことの大切さを、生徒の皆さんから教えてもらいました。(写真右下から:栗田、高本)

書き損じはがきの回収に、
ご協力ください！宛先は、
テラルネ事務所まで。



〒600-8191

京都府京都市下京区五条高倉角堺町 21 番地

jimukinoueda bldg. 403 号室

認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス

『めぐるプロジェクト係』まで

小さな力が
大きな力になる

2月6日、テラ・ルネッサンスで実施している書き損じはがき（以下はがき）回収事業にご協力いただいた、京都市立藤森中学校を訪問。生徒会の皆さんから、854枚のはがきを受け取りました。回収したはがきは、郵便局で換金することによって、テラ・ルネッサンスの活動資金として活用しています。

藤森中学校は、2012年からがきの回収事業にご協力いただいています。今年は「小さな力が大きな力になる」をスローガンに掲げ、生徒会役員が全25クラスへ、はがき回収の呼びかけをしてくださいました。「どうすればみんなが世界の現状に目を向け、協力してくれるだろう」と考え、生徒の皆さんがアイデアを持ち寄り、演劇や動画作成など様々な方法で呼びかけを行いました。その結果、2週間で854枚ものはがきを回収することができたそうです。

「今回ののがき回収事業において大切なことは、はがきの回収枚数ではなく、藤森中学校の生徒がこの取り組みを通して、今の日常が当たり前ではないことを知り、世界の現状に、目を向けてくれるようになることです」と、生徒会の皆さんが語っ

ていたことが、とても印象的でした。

今回の訪問で、めぐるプロジェクト（回収支援事業）の輪が、着実に広がっていることを実感しました。藤森中学校の全校生徒に平和の種をまいてくれた生徒会の皆さん、そして生徒会の呼びかけに答えてくれた生徒の皆さんに感謝し、これからも平和を想う人の輪が広がっていくことを願い、テラ・ルネッサンスの活動を続けていきます。藤森中学校の皆さん、ご協力ありがとうございました！

ご家庭や学校、
会社にあるはがきを
当会までお送りください

テラ・ルネッサンスでは、合計11361（いい未来）枚の回収を目指して、書き損じ・未使用はがきの回収強化キャンペーンを実施しています。これまで、9919枚のはがきが届きました！皆さまからのご協力に感謝いたします。ご支援くださる一人ひとりの想いと一緒にはがきが必要としている、アジアやアフリカの人々にお届けします。お送りいただくはがきは、1枚からでも受付中です。キャンペーンへのご協力を、どうぞよろしく願います。



東日本大震災から、今年で7回目の3月11日。岩手県大槌町は、20メートルを超える高さの津波が町を襲い、町長を含む1286名の方が命を落とす未曾有の被害にあいました。そんな失意のどん底にある避難所から産声をあげた大槌復興刺し子プロジェクトも、今年で活動から8年目を迎えます。これまでの商品売上は1億2千万円を超え、刺し子さん190名（累計）に約3300万円を工賃としてお支払いすることができました。（いずれも2018年1月末時点）

人がもつ強さ、
たくましさ、美しさ。

活動レポート

大槌復興刺し子プロジェクトマネージャー 吉田真衣

当初、このプロジェクトは生活再建の促進と心のケアを目的にはじまりました。現在では、35名の刺し子さんが集い交流するひとつのコミュニティに成長しています。ここから生まれる商品は、大槌町の特産品としても認知されるようになりました。7年間の活動を通して見えてきたこと。それは、人の強さ、たくましさ、美しさです。刺し子さんの中には、ご家族を失われた方もいます。当時は悔しさ、悲しみ、自分だけ生き残った罪悪感、私たちには想像もできない想いがあったことでしょう。壮絶な過去を乗り越え、今も時折襲うそれらの感情を抱えながらも、日々を丁寧につくましく過ごす姿に、私はこの町の未来を見ます。そして、このプロジェクトを通して、大槌の町をもう一度、みんなが誇れる美しく、たくましい町にしたいため、また1年と歴史を刻みたいと思います。



百貨店などの販売で人気の伝統柄バッグ。完成した商品を手に取り、嬉しそうな笑顔を見せてくれました。特注品もお受けしていますので、まずは、大槌刺し子のホームページをご覧ください。

大槌刺し子

検索

<https://sashiko.jp/>



ともに学び、支え合った7期生。手をつなぎ、喜びあう姿に、彼や彼女らがもつ希望と、その未来を感じました。

卒業生にみる、
未来のわたし。

活動レポート

アフリカ事業マネージャー 鈴鹿達二郎

2017年11月、ウガンダの元子ども兵自立支援センターで、3年間の職業訓練とビジネスの訓練に励んできた、第7期生の卒業式を行いました。卒業生のひとりが、式のスピーチでこんな話をしてくれました。「村に帰還したあと、周囲からは役に立たないと言われ、自分には価値がないんだと思いながら過ごしていました。ですが、テラ・ルネッサンスで洋裁や読み書き、ビジネスを学ぶことができ、洋裁店を開いて働けるようになったことで、家族を支えられるようになりました。また、技術を学びたいという近所の人たちからの要望を受け、今では洋裁教室も運営しています。将来の夢については、私の子どもたちに、学校の先生や医者さんになってほしいと思っていますが、そのうちの一人には、私のお店を継いでもらいたい



と考えています。」現在、センターで訓練を受けている9期生の元子ども兵の私たちは、未来にむかう卒業生たちを見て、今後、自分の自立している姿や、その後の生活をイメージすることができ、良い機会になったと思います。私は、卒業生たちの様子を見て、さまざまな困難にあるなかでも、自立する環境を整えていくことで、一人ひとりが「未来をつくる力」を発揮できるのだということを、再認識できました。

ロード・オブ・ウォー



写真提供: ギャガ・コミュニケーションズ

私たちが取り組む「子ども兵」という社会課題は、彼らが巻き込まれる武力紛争を時として持続させる武器の貿易問題と、密接に関係しています。

テラ・ルネッサンスは、政策提言活動の一環として「コントロール・アームズ」キャンペーンに加盟（2018年2月末時点）し、武器貿易条約（ATT）の締約国会議プロセスに働きかけています。それは、国家間の武器貿易の規制が、子ども兵問題の根本的な解決のために欠かせないと考えているからです。そして、このような政策提言の取り組みが、より強い効力を発揮するためには、問題に対する一人ひとりの認知を広め、社会の声として世界に訴えていく必要があります。

今回ご紹介する『ロード・オブ・ウォー』という映画は、実在する武器商人への取材をもとに制作されました。ニコラス・ケイジ演じる主人公の武器ビジネスの視点から、世界の武力紛争について、その内情を知

ることができます。

とりわけ、主人公ユーリの人間性は、とても印象的です。彼を一言で表すならば、類い稀なる才能の持ち主であるということ。文字どおり、血のにじむような努力で武器ビジネス業界の頂点にのぼりつめ、誰もがうらやむ幸せを掴みとります。ただ、それは「血塗られた幸せ」でもありません。武器が売れるということは、その武器によって誰かが傷つけられるという事実を孕んでいます。なによりユーリ自身、それは誰よりも理解していることでした。心配した家族は、思い直すようにと彼を説得します。そんな家族に対して、「これが私の才能なんだ。」と返すユーリの言葉は、私にとって最も印象的でした。もしも、彼の生きてきた環境に溢れるものが、武器ではなく本や芸術だったなら、彼の人生は大きく変わっていたかもしれません。彼が信じている自身の「才能」は、武器ビジネスではなく、もっと他の分野で輝きを放つことだってできたはず

です。芸術とは、人生をより豊かにする最も重要な要素です。彼にとって最大の不幸は、その機会に多く恵まれなかったことだと言えるでしょう。ユーリの妻であるエヴァが、女優や画家にチャレンジし続ける姿は、そのことを暗に示しているように感じました。

先でもふれたように、政策提言を推進するうえにおいて、問題に対する一人ひとりの認知を広めることは重要です。この映画がそれにうってつけである理由は、武器ビジネスという重いテーマ設定にも関わらず、ドラマとしてエンターテインメント性に優れていること。そして、それが押し付けがましくないかたちで作用し、武器ビジネスの事実をしっかりと伝えてくれるためです。

この機会に、映画という芸術にふれながら、武器ビジネスの社会問題について考える時間を、過ごしてみたいかがででしょうか。社会の見え方が、すこし変わってくるかもしれません。

テラルネなひとびと

スタッフ編
栗田 佳典 Yoshinori Kurita
アウェアネス・レイジング事業 マネージャー



こんにちは。ARチームマネージャーの栗田佳典です。私は教育機関などでの講演やウガンダコーヒーの販売、書き損じはがきなど不要になった物を集めて支援する「めぐるプロジェクト」など、多くの方が気軽に国際協力に参画できるきっかけと仕組み作りを担当しています。格好良く言えば、関わる方の選択肢を増やす仕事です。「自分にできることは小さいかもしれんけど、やれることがあると思うことが大切やと思う」。講演後、そんな感想を寄せてくれた高校生。「寄付はできないけど、自分にできることで協力したい」と、地雷についてのマンガを描いてくれた小学生。国際協力に年齢も地域も関係ない



のだと感じます。テラ・ルネッサンスの「ひとり一人に未来をつくる力がある」という活動理念を、講演先で出逢った子どもたちが体現してくれています。「今日の話は眠くならへんかったで」も、私にとっては嬉しい誉め言葉です。聞いてくださった方の選択肢がひとつでも増えたらいいな、そんな思いを持って今日も講演に行ってきます！

ファンクラブ編
吉岡 由紀さん
株式会社ASY 専務取締役



講演で鬼丸さんの話を聞いて、携帯電話のレアメタルがコンゴの紛争に与える悪影響について知りました。日々の暮らしのなかで、便利を享受している私にも責任があると感じ、「微力ながら支援をしたい」という想いから、ファンクラブ会員に。支援をする中で、大きく、そして色んな視点から物事を見ることができるようになるなど、私自身も変わりました。いつか、私が経営するカフェでも、ミニ講演会などを開催したいと思っています。

ファンクラブ会員、募集中！

1口1,000円(毎月)から、活動を応援できる「ファンクラブ会員」。情報満載の**活動レポート**や、**海外からのポストカード**などをお届けしています。お申し込みはホームページ、またはお電話でも受付中。すでにファンクラブ会員の場合は**金額変更も可能**です。お気軽にお問い合わせください。

テラルネッサンス ファンクラブ 検索
電話 075-741-8786 (月-土 10時-18時)





世界の扉絵.02

「将来ほしいものは何?」ときかれ描いた家の壁はピンク色。完成した作品を手に、子どもたちの表情は満足げな笑顔にかわっていく。正直な気持ちで描いた未来を、どれが上手かとたずねたりはしない。そんな彼らを見て思う。大人も、負けてはいられない。



PRチーム
元フェローシップ
辻本真貴子

 terra_ngo

ドキュメンタリー番組出演!
『明日世界が終わるとしても』
NHKBS1『明日世界が終わるとしても』ウガンダ 小川真吾(仮)に、理事長の小川が出演。放送前に小川からのメッセージをお届けします。「2005年から13年間、ウガンダの元子ども兵の自立支援に取り組んできました。今回のようにテレビ取材を受け、活動を広くお知らせできるのも、日本の皆さまのご支援とともに、一緒に活動を継続することができたおかげであると感じています。番組に取り上げられる現地のスタッフは、かつて自分自身も支援を受ける存在でした。ですが、今ではスタッフとして一緒に活動し、私たち支える存在として活躍してくれています。皆さんとともに築き上げてきたウガンダでの活動を、ぜひご覧ください」



【NHK BS1】
3月27日(火) 23時から放送

※ニュースなどにより放送日時が変更になる可能性があります。予めご了承ください。

News Letter.02 結晶母

2018年3月16日発行

発行◎認定NPO法人テラ・ルネッサンス

発行責任◎小川 真吾

企画編集◎小田 起世和

表紙写真◎辻本 真貴子

協力◎江藤 ちふみ

本書の一部または全てを複写・転載引用する際には、
予めテラ・ルネッサンス事務局までご連絡ください。

© 2018 Terra Renaissance



ひとり一人に未来をつくる力がある
認定NPO法人 テラ・ルネッサンス

- 日常シリーズ・京都事務局の場合 -



#テラルネ飯



#テラルネ飯

京都事務局では、お昼ご飯をつくって、
みんなで一緒にいただきます。最近、野菜が高い…。